Q「毎年、胃や胸部の集団検診を受けても大丈夫ですか？」

A　大丈夫です！！

透視検査（胃透視・注腸）の被ばく線量は、X線透視を行いながら撮影するという他の検査と比較して、総合的に高くなります。他の検査同様、全身に照射しているのではなく、目的の部分に限定しています。

【検診胸部単純撮影】

「絞り」を使ってX線を照射する範囲を胸部に限定しています。
→頭部や下腹部など照射野（放射線を照射する範囲）に入らない部分は放射線を受けないと考えて頂いてかまいません。
検診胸部単純撮影１枚あたりの被曝線量は約 0.15mGyです。

【胃 X 線検査】

いろいろな方向から透視と撮影を行います。
１検査あたりの被ばく線量は約 65～100mGy です。

《各臓器・組織の確定的影響の急性被ばくにおけるしきい線量》

組織・臓器	影響	しきい線量
目の水晶体	水晶体混濁	2000～10000mGy
骨髄	造血能低下	500mGy
生殖腺（男）	一時不妊 永久不妊	150mGy 3500～6000mGy
生殖腺（女）	永久不妊	2500～6000mGy

（ICRP Pub.60 より）

「しきい線量」…
人の放射線障害の経験を基に、被ばく集団の 1～5%の人々に異常が認められる線量。或は、被ばく集団の 10%に影響が認められる線量の 2/3 の線量を表します。
「確定的影響」・・・
しきい線量を超えると影響が現れはじめ、しきい線量の増加とともに影響の程度も増大します。しきい線量以下に抑えることで影響を少なくします。

参考文献　　JART　日本放射線技師会 2005/vol.52/No.529

医真会八尾総合病院　放射線科